

平成28年度 全国学力・学習状況調査における結果について

平成28年2月 小平町教育委員会

この報告書は、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を受け、当町の児童生徒についてまとめたものである。

本年度より、結果の公表を行うこととなり、広く情報公開することにより、家庭や地域が情報を共有し、一体となった学力向上施策を進めることができるものである。

小平町の状況は、小学生の国語では全国平均を少し上回るものの、算数では全国はもとより、全道平均よりも少し低い傾向であり、特に図形や数量関係において苦手な傾向がうかがえる。

一方、中学生においては、国語・数学とも全国平均を上回っており、日頃からの教育活動の成果が実を結んだ結果であり、今後さらに向上を図るためには、学校、家庭、地域、行政が一体となった取り組みが必要となってくる。

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校6学年、中学校3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ・学校に対する調査
 - 学校における指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

平成28年4月19日(火)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

区分	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	児童数
全国	19,752	1,021,910	9,685	996,575
北海道	1,048	40,277	608	41,236
小平町	2	21	1	14

II 教科調査結果の概要

1 本町における各教科の全道・全国との差

	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
小平町	76.5	61.0	70.8	39.6	83.8	75.4	74.8	55.2
北海道	71.0	56.0	75.3	44.5	75.1	65.0	61.8	43.3
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
北海道との差	5.5	5.0	-4.5	-4.9	8.7	10.4	13	11.9
全国との差	3.6	3.2	-6.8	-7.6	8.2	8.9	12.6	11.1

(1) 小学校

- ①国語 A において、「書くこと」の領域で全国より 3.8 ポイント下回ったものの、「話すこと・聞くこと」では 6.5 ポイント、「読むこと」は 4.8 ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では 4.6 ポイントと上回り方も大きい。
- ②国語 B では、出題された「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」すべて全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」の領域では 9.2 ポイント上回り、「書くこと」では 7.7 ポイント、「読むこと」では 2.1 ポイント上回った。
- ③算数 A において、「量と測定」の領域では全道平均をやや上回ったものの、「数と計算」「図形」「数量関係」では、全道を下回った。特に「図形」では 13.1 ポイント「数量関係」では 7.8 ポイントと大きく下回っている。
- ④算数 B では、「量と測定」の領域が全道平均をやや上回ったが、「図形」「数と計算」「数量関係」が下回る結果となった。特に「数量関係」では、「数量関係」に関わる大問題 2 問のうち 1 問が 3 割弱の正答しかなかったため、-8.8 と大きく下回った。

(2) 中学校

- ①国語 A において、出題された「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」すべてで全国平均を上回り、特に「書くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では 10 ポイント以上上回った。
- ②国語 B でも、出題された「書くこと」「読むこと」すべてが全国平均を上回り、特に「読むこと」は 8.9 ポイントと大きく上回っている。
- ③算数 A において、出題された「数と式」「図形」「関数」「資料活用」すべてで全国平均を上回り、「図形」では 15 ポイント、「関数」では 17.6 ポイント、「資料活用」では 16.7 ポイントと大きく上回った。
- ④算数 B でも、出題されたすべてが全国平均を上回ったが、特に「数と式」では 12.8 ポイント、「関数」では 14.3 ポイントと大きく上回っている。

Ⅲ 質問紙調査結果の概要

1 児童・生徒に関する質問紙調査の結果

(1) 小学校

①全道よりポイントが50ポイント以上高かった質問事項

- * 学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた。
- * 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した。
- * 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた。
- * 国語の勉強が好き。
- * 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。
- * 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- * 家で、学校の授業の予習をしている。
- * 家で、学校の授業の復習をしている。
- * 学習塾に通っていない。

②全道よりポイントが20ポイント以上低かった質問事項

- * 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた。
- * 自分の考えを発表する機会が与えられていた。
- * 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- * 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいく。
- * 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えている。

- * 学校が休みの日に2時間以上勉強する。
(1時間~2時間の間で勉強するが一番多かった)
- * 毎日同じくらいの時刻に寝る。
(午後10時から11時までの間に寝る子が一番多かった)
- * 1日のテレビの視聴時間(勉強のための時間を除く)(1時間未満)
- * 1日のテレビの視聴時間(勉強のための時間を除く)(2時間未満) }
(2時間以上テレビを見ているが多かった)
- * 人の役に立つ人間になりたいと思う。

(2) 中学校

①全道よりポイントが50ポイント以上高かった質問事項

- * 自分の考えを発表する機会が与えられていた。
- * 生徒の間で話し合う活動をよく行っていた。
- * 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した。
- * 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた。
- * 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。
- * 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている。
- * 家で、学校の授業の予習をしている。
- * 学習塾(家庭教師含む)に通っていない。
- * 1日のテレビの視聴時間(勉強のための時間を除く)(1時間未満)
- * 自分にはよいところがあると思う。

②全道よりポイントが20ポイント以上低かった質問事項

- * 生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた。
- * 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- * 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- * 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- * 学校の授業時間以外に、普段1日あたり1時間以上は勉強する。
(普段1時間~3時間の間で勉強するが一番多かった)
- * 学校の規則を守っている。

IV 今後の取組

(1) 小学校の国語

「書くこと」の正答率が低い傾向があり、全ての学校で、授業の中で目標（めあて、ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れることが必要である。

(2) 小学校の算数

「図形」「数量関係」など、課題があった領域を中心に、問題の意図を正しく理解しないまま回答するというミスを減らし、理解力や学習内容の定着状況と結果の差を埋めていくことが必要である。

(3) 中学校の国語

「話すこと・聞くこと」の正答率が少し低い傾向にあるので、話し合いを通じて自分の考えを広げたり、課題の解決に向けて互いの考えを生かしあったりする力を育む必要がある。

(4) 中学校の数学

基礎基本を確実に定着させる取り組みが成果となって表れているが、さらに質を高めるためには、学習したことをもとにして、より発展的な問題等に挑戦しようとする態度を育てていくことが必要である。

●小平町の学力向上策

- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学力向上の取組の推進
- ・長期休業中における学習サポート授業の実施
- ・個に応じたきめ細やかな学習指導の充実
- ・家庭との連携による学習習慣の確立に向けた取組の推進
- ・学校での朝読書活動、家庭での読書週間の定着化